

袖珍日語辭典

昭和八年十二月十五月初版
康德五年八月五日第五十版

袖珍日語辭典

定價六角

郵費四分

翻印必究

著者

奉天市大和區義光街十一緯路一一七號

飯河道雄

發行者

奉天市大和區義光街十一緯路一一七號

飯河光樹

印刷者

奉天市大和區義光街十一緯路一一七號

飯河四郎

發行處

奉天市大和區義光街十一緯路一一七號

東方文化會

發售處

奉天市大和區義光街十一緯路一一七號

東方印書館

轉賬(振替)奉天七〇六番

電話二一二一三二番

袖珍日語辭典

例言

一、本書係爲滿洲國及中華民國之欲學習日語之人士而編纂者。

二、本書將現代日本日常所最普通使用之用語，盡量蒐集而譯爲適當之中國語。近來歐美各國之語言日々滔々輸入日本，且將其原語與向來之日本語同樣使用，本書對此等新外來語亦盡力加以蒐集。

一、原來此種辭書以譯語之當否而定其價值，本館編譯所同人對此點尤特別注意，因欲以此辭典爲一般日語準譯之標準，故在選擇適當之譯語時曾煞費苦心。

一、本書中綱目之日本語，均採用表示依照發音之假名使用法即所謂表音的假名使

キ
 子
 工
 夕
 ニツ

用法。故「ぬ」編入「い」、「を」編入「お」、「ふ」編入「え」、「ぢ」編入「じ」、「づ」編入「ず」、漢字之假名用法按表音的假名用法。如「ひやう」寫做「ひよう」、「てふ」寫做「ちよう」等是。

一、綱目之日本語之順序均按五十音圖之順序。封皮之裏面附有索引表。

二、使用日本語之辭書時、若多少明悉日本文法尤為便利。故本書在卷頭並附有日

本文法之大意、以資參考。

一、本書中所用的略語如左。

(名).....名詞

(他).....他動詞

(代).....代名詞

(形).....形容詞

(自).....自動詞

(助動).....助動詞

(副)……………副詞

(接)……………接續詞

(助)……………助詞

(感)……………感歎詞

(四)……………四段活用

(上一)……………上一段活用

(下一)……………下一段活用

(力變)……………加行變格活用

(廿變)……………佐行變格活用

文法要略

日本文法有文言・口語兩種、現在文語的用途漸少、在文章中文言・口語合體也很流行、因本書也拿口語做標準、所以以下舉的例子都根據這個原則。

一 單語的分類

日本語的單語大別可以分爲名詞・代名詞・動詞・形容詞・助動詞・副詞・接續詞・助詞・感歎詞等九種、此外還有附在他語上的「接頭語」和附在他語下的「接尾語」、但這兩種必和他語相接、纔能成一單語、其本身不能叫做單語。

(1) 名詞 名詞是表示事物名稱・數目等的單語。物是指有形的、例如山・川・花・草・人・鳥等

是。事是指無形的，例如心・力・美・春・秋・今年等是。數目是計數人或物的數或量的

例如五人・八間・千圓等是。

(2) 代名詞 代名詞是代替名詞使用的單語。例如私・貴下・アノ方・此處・彼等是。

(3) 動詞 動詞是表示事物的動作或存在的單語。例如笑フ・遊ブ・書ク・行ク・食フ・見ル等是。

(4) 形容詞 形容詞是表示事物的性質狀態而限定名詞代名詞的意義的單語。例如白イ・美シイ・赤イ・長イ・暖イ等是。

(5) 助動詞 助動詞是附於動詞而補助種々意義的單語。例如マス・デス・タイ・サセル等是。

(6) 副詞 副詞是附於動詞形容詞和其他副詞而限定其意義的單語。例如早ク・ナカナカ・最

マ・非常ニ・ユツタリ等是。

(7) 接續詞 接續詞是聯接單語和單語・句和句・或文或文的單語。例如併シ・ケレドモ・又處ガ等是。

(8) 助詞 助詞也叫做天爾乎波(テニヲハ)、是幫助其他各種單語、表示該語和他語關係的單語。例如ハ・ガ・ヲ・ニ・ノ・カラ・マデ等是。

(9) 感歎詞 感歎詞是表示感歎的意義或感歎時自然發出的聲音。例如ア・ア・サア・オオ・マア・オヤ・オイ等是。

二 動詞的語尾變化

一切的動詞都按着一定的規則變化其語尾、現在把口語的動詞語尾變化列表於左。

口語動詞語尾變化表

四 段 活 用						活 用
ラ	マ	ハ	タ	サ	カ	行
送 ^オ	住 ^ス	買 ^カ	打 ^ウ	話 ^ハ	聞 ^キ	語 根
ラ	マ	ハ	タ	サ	カ	將 然 形
リ	ミ	ヒ	チ	シ	キ	通 用 形
ル	ム	フ	ツ	ス	ク	終 止 形
ル	ム	フ	ツ	ス	ク	連 體 形
レ	メ	ヘ	テ	セ	ケ	假 定 形
レ	メ	ヘ	テ	セ	ケ	命 令 形

用上段活用

用上段活用								活用
ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	カ	行
居 [○]	借 ^ハ	悔 ^フ	試 ^コ	強 ^シ	似 [○]	落 ^タ	起 ^タ	語根
キ	リ	イ	ミ	ヒ	ニ	チ	キ	將然形
キ	リ	イ	ミ	ヒ	ニ	チ	キ	通用形
キ ル	リ ル	イ ル	ミ ル	ヒ ル	ニ ル	チ ル	キ ル	終止形
キ ル	リ ル	イ ル	ミ ル	ヒ ル	ニ ル	チ ル	キ ル	連體形
キ レ	リ レ	イ レ	ミ レ	ヒ レ	ニ レ	チ レ	キ レ	假定形
キ	リ	イ	ミ	ヒ	ニ	チ	キ	命令形
ロエ	ロエ	ロエ	ロエ	ロエ	ロエ	ロエ	ロエ	

用 活 段 一 下

活用

行

語根

將然形

連用形

終止形

連體形

假定形

命令形

ヤ マ ハ ナ タ サ カ ア

消^ホ 譽^ホ 答^{コタ} 兼^カ 當^ア 寄^ヨ 受^ウ 得^ド

エ メ ヘ ネ テ セ ケ エ

エ メ ヘ ネ テ セ ケ エ

エ
ル
メ
ル
ヘ
ル
ネ
ル
テ
ル
セ
ル
ケ
ル
エ
ル

エ
ル
メ
ル
ヘ
ル
ネ
ル
テ
ル
セ
ル
ケ
ル
エ
ル

エ
レ
メ
レ
ヘ
レ
ネ
レ
テ
レ
セ
レ
ケ
レ
エ
レ

エ
メ
ヘ
ネ
テ
セ
ケ
エ

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

變格		カ行	
爲	來 ^〇	ワ	ヲ
シセ	コ	植 ^ウ	枯 ^ク
シ	キ	エ	レ
スル	クル	エ	レ
スル	クル	エル	ル
スレ	クレ	エル	ル
シセ	コイ	エ	レ
口ヨ		口ヨ	口ヨ

備考 動詞的四段活用在文語和口語相同、但文語的上二段活用和下二段活用、在口語就

變做上一段活用和下一段活用、例如「受ケル」的變化在文語方面是「受ケ・受ケ・受ケ・受ケ・受ケル・受ケレ・受ケレ」了。

クル・受ケレ・受ケヨ、但是口語的變化就成了「受ケ・受ケ・受ケ・受ケル・受ケレ・受ケレ」了。

現在將文語動詞變爲口語動詞之標準表示如左

サ 行 變 格	カ 行 變 格	下下 一二 段段	上上 一二 段段	ラナ四 行行 變變 格格段	文 語
サ 行 變 格	カ 行 變 格	下 一 段	上 一 段	四 段	口 語

三 形容詞的語尾變化

形容詞也都按一定的規則變化其語尾、無論文語口語變化方法都有兩種、一種叫「ク活用」、一種叫「シク活用」、現在把口語形容詞的語尾變化列表於左

口語形容詞的語尾變化表

活用クシ	活用ク	活用
喧 <small>ヤカ</small> 美 <small>クシク</small>	長 <small>チカ</small> 善 <small>ヨシ</small>	語根
シク	ク	將然形
シク	ク	連用形
シイ	イ	終止形
シイ	イ	連體形
シケレ	ケレ	假定形

注音
揮畫

康德新詞典

飯河道雄先生監修
東方印書館編譯所編纂
袖珍版八百頁·書皮美麗紙裝
定價八角（郵費八分）

特長之一斑

新興國

之

新辭典

- 舉凡註音四聲，本典一一明白地標出。採辭力避偏僻，且不失簡陋，解釋務期簡明而易於應用。
- 前世紀一切國名都市名地名等凡有改變者，概從新名。
- 本典每部各字，悉以筆畫多寡爲序，先解每字之單意，後釋其複詞及成語之意義，檢尋方法至爲簡便。
- 近代科學上流行名詞及用語等，凡在普通需用之範圍內者無不廣爲集解。
- 本典並非僅可供學界之用，凡普通社會上及書札中應用文字語句，亦應有盡有，故誠爲各界必備之書也。

——携 必 民 國——

飯 河 道 雄 先 生 著

對譯 詳註 初等日本語讀本 第一、二、三、四

各定價一・四〇
郵費一・〇四

對譯 詳註 中等日本語讀本 卷一、卷二、卷三、卷四

各定價一・五〇
郵費一・〇四

對譯 詳註 高等日本語讀本

卷一 定價一・六〇
卷二 定價一・〇四

對譯 詳註 日本尋常小學國語讀本
〔日語留聲片叢書〕

各定價一・二五
郵費一・〇二
近刊郵費一・〇四

對譯 詳註 速修日本語讀本

定價一・九〇
郵費一・〇六

對譯 詳註 新體日語讀本

各定價一・四〇
郵費一・〇四

南滿洲教育會教科書編輯部編纂「初等・中等・高等各日語讀本」(滿鐵語學檢定試驗指定標準書)的對譯。

「對譯詳註初等日本語讀本」有合訂本(定價一・七〇郵費二・〇〇)、又同書卷一之卷首載有日語發音法講義。

現行「日本尋常小學國語讀本」的對譯。註解方面關於風俗習慣者尤特留意。原著瀧有東京標準音留聲片。

第一編片假名・單語。第二編單句・單文。第三編不假名。第四編會話。第五編文章。全一册、索列二六〇頁。

依據外國語教授法上所出「讀本中心主義」而編纂的。發音・譯讀・會話・作文・語法等完全包括在內。